

第18回 MIFA コンサート

お子様連れ
OK

MAYA

フォルクローレコンサート

～アンデスの風に出会うとき～

「コンドルは飛んでゆく」で知られる、アンデス伝統音楽フォルクローレ。

日本を代表するソリスト5人によるフォルクローレユニット「MAYA」がやってくる。

悠久のときを超えて響きわたる、至高の風の調べ。

音の魂は時として鬼気迫り、かいま見える彼方の地平へ——。



Daisuke Watanabe



Hiroyasu Okada



Hitoshi Hashimoto



TOYO Kusanagi



Mutsumi Terasawa

2015年

3月29日[日] (13:00 開場)
13:30 開演

守谷市中央公民館ホール

(茨城県守谷市百合ヶ丘二丁目 2450-1)

チケット 前売券:1,000円 当日券:1,500円

※児童の保護者同伴席をご用意させていただいております。

チケット取扱協力先 ▶ 守谷すたいる (つくばエクスプレス守谷駅1階)

お問い合わせ ▶ mifa@fureai.or.jp (守谷市国際交流協会)

主催/守谷市国際交流協会 (MIFA)



MAYA



日本を代表するフォルクローレのソリスト5人によるアコースティック・ユニット。
 1987年結成。アンデス地方のフォルクローレを演奏するグループとしてプロ活動を開始。
 1989年アルバム『空中都市』（ビクターエンタテインメント株式会社）でデビュー。
 1992年佐野史郎主演の映画『あふれる熱い涙』のサウンドトラックを手がけ、CDも発売。
 1994年2ndアルバム『sensacion』をリリース。全曲オリジナル曲で構成され、「たま」の知久寿焼を
 ゲストボーカルとして迎えている。同時に『石の町』シングルカット発売。
 1998年オフィス北野制作・ダンカン主演の映画『生きない』（ロカルノ映画祭特別賞受賞）の音楽を担当。
 1999年『生きない』のサウンドトラックと新曲を収録した3rdアルバム『歌織人』を発売。
 2005年大阪トリイホールにてライブ録音された初のライブアルバム『アシビの森へ』を発売。
 2010年オリジナルアルバム『ホカヒビト』発売。
 2012年ペルーやボリビアなどの伝承曲を中心としたアルバム『CUCULINO』を発売。
 2013年新進気鋭のケーナ奏者渡辺大輔が正式加入し5人編成となる。

「MAYA」とはボリビアのアイマラ族の言葉で数字の「1」を意味する。ペルー、ボリビア、エクアドル
 などのフォルクローレの演奏スタイルを基本としながら、日本人の感性を生かした洗練されたアレンジを
 コンセプトとして、独自のアコースティックサウンドを目指す。
 アンデス音楽のみならず、メンバー各々のオリジナル曲、中世ヨーロッパのトラッドなど幅広いレパートリーを持つグループとして、
 全国規模でコンサート活動を展開中。

～ MAYA メンバー ～



橋本仁 Hitoshi Hashimoto ケーナ、サンボーニャほか

日本を代表するケーナ奏者。MAYAのリーダー。
 自らケーナを制作し、独自の演奏スタイルを追求してきた。
 1975年よりグループ「橋本仁とその仲間」で、ケーナなどアンデスの楽器による演奏活動を始める。
 1981年には本格的なボリビスタスタイルの演奏を目標とした「ボケチャギサ」を結成。
 1987年、岡田浩安らと「MAYA」を結成。コンセプトを絞り、プロへと転向する。以後、MAYAを基盤にCD制作、
 コンサート活動、作曲、ケーナ製作等において、全国的にパフォーマンスを繰り広げる。



岡田浩安 Hiroyasu Okada サンボーニャ、ギターほか

MAYA結成当初からのメンバー。
 13歳でケーナを始め、その後サンボーニャ等も開始。現在では管楽器・弦楽器・打楽器まで幅広い守備範囲を誇る。
 数度にわたりボリビアに滞在し、現地アーティストとの共演・演奏活動を行う。
 現地の奏法・雰囲気尊重しつつも伝統にとらわれない自由な音作りが評価されている。
 サンボーニャやケーナのソリストとしても活動しており、KOKIA・南こうせつなど多数のレコーディングに参加。
 葦工房、BALSITAレーベル主宰。



寺澤むつみ Mutsumi Terasawa ギター、クアトロほか

高校時代の終わりにフォルクローレと出会い、ギターやチャランゴを始める。
 1991年からプロ活動を開始し、国内外の様々なラテンおよびフォルクローレのミュージシャンと共演。
 同年MAYAに加入。絶妙なチームワークでステージを盛り上げる。
 フォルクローレのみならず、ラテン、タンゴ等の音楽にも精通し、本場の音色を表現できる高度なテクニックと豊富
 な知識は高く評価されている。
 ギターだけでなく、クアトロ、チャランゴ、レキントギター、ティプレ、マンドリンなど多くの弦楽器を操る名手である。



TOYO 草薙 TOYO Kusanagi チャランゴ、マンドリンほか

8歳からギターを、学生時代からチャランゴを始める。
 大学卒業後にプロ活動を開始。本場南米の伝統的な奏法から現代の音楽まで、あまねく才能を発揮している。柔軟な
 音楽性により多くのグループに参加しており、演出家としての役割も果たしている。
 1994年『sensacion』のレコーディング時よりMAYAに加入。チャランゴ、マンドリン等を担当する。
 近年、チャランゴの可能性を追求した独奏曲を数多く手がけ、2003年にはオリジナルソロアルバム『東洋の風』を発表。
 また、2000年よりチャランゴ研究会を主宰し、後進の指導にも力を注いでいる。



渡辺大輔 Daisuke Watanabe ケーナ、パーカッションほか

学生時代にケーナの演奏を始め、独自の研鑽を重ねた。
 大学卒業後にはフォルクローレについて見聞を広めるべくペルー及びボリビアを旅したのち、帰国後にはチャランゴ
 奏者桑原健一らと若手フォルクローレバンド「PachamamaX」を結成し、リーダーとして活躍した。なお、この時期
 約10年にわたってMAYAのサポートメンバーを務めた。
 2013年にプロへと転向し、時をほぼ同じくしてMAYAに正式メンバーとして加入。おもにケーナ、パーカッション
 を担当する。